

どうする!?

ウィズコロナ
アフターコロナ

ニューノーマルの 学校の衛生対策



C O N T E N T S

みんな迷っている!? 学校の衛生対策のこれから	01
掃除と除菌・消毒、一緒に考えてみませんか?	03
ニューノーマルの衛生対策 7つの提案	04
汚れや菌・ウイルスを広げない一方向拭きのすすめ	08
正しい清掃や衛生対策を学ぶ「福育(拭く育)」授業レポート ...	09
学校の衛生対策に速効+持続力のDr.CLEAN+	10



みんな迷っている!?

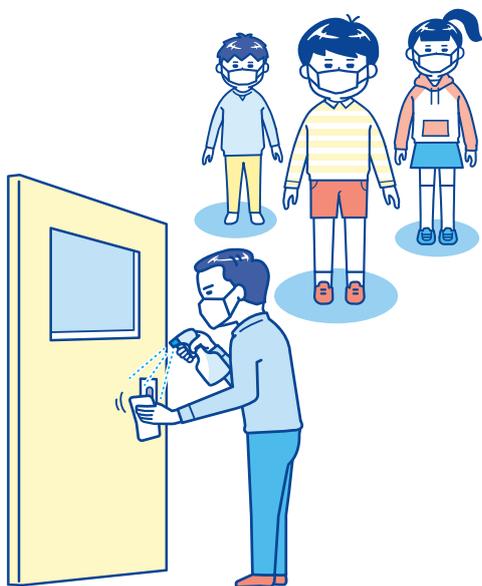
学校の衛生対策のこれから

学校の衛生対策は、今後どのように変化していくのか？

エステーは、小学校、中学校、高校の教職員240人にアンケートを実施し、現場の意識を調査しました。意見が分かれた質問が多く、学校で働くみなさんの迷いがみとれます。

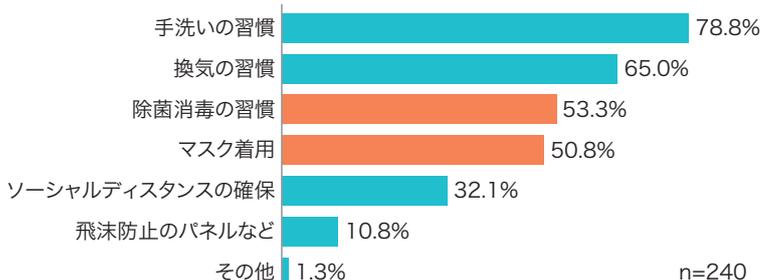
【調査概要】 調査時期：2022年5月／対象：20歳以上の小中高校の教員および職員240人／方法：インターネット調査

アフターコロナも除菌・消毒とマスクは残る？



以前から励行されていた手洗いや換気は、コロナ禍でさらに定着したよい習慣として、今後も継続されるでしょう。問題は、以前はなかった除菌消毒やマスクの着用。どちらも過半数の人が、コロナ収束後も「元通りにならない」と考えています。学校にも「ニューノーマル」が定着する見込みです。

コロナ収束後も、元通りにならない学校の衛生対策は？ (複数回答)

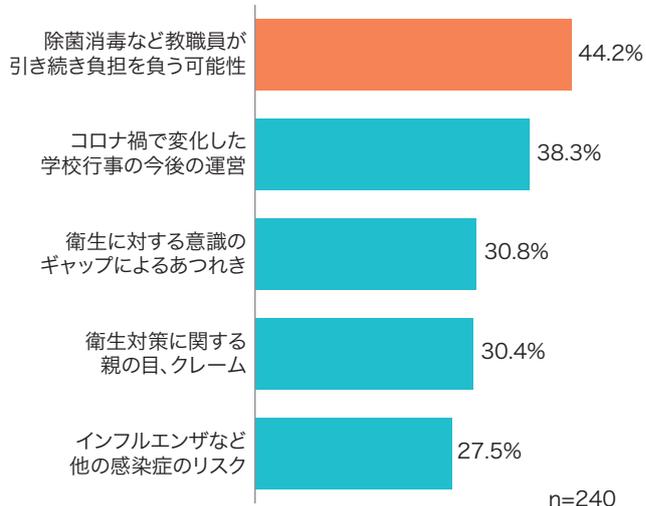


除菌・消毒の作業は引き続き教職員が行う？



約4割が除菌・消毒の作業、教職員の負担を心配しています。今後は作業が増えすぎないように、賢く対策していく必要があります。また、衛生に対する意識には、児童生徒、教職員、家庭間でのギャップも予想されます。コミュニケーションが、学校のニューノーマルの重要な課題になりそうです。

ウィズコロナ、アフターコロナの 学校で不安なことTOP5 (複数回答)



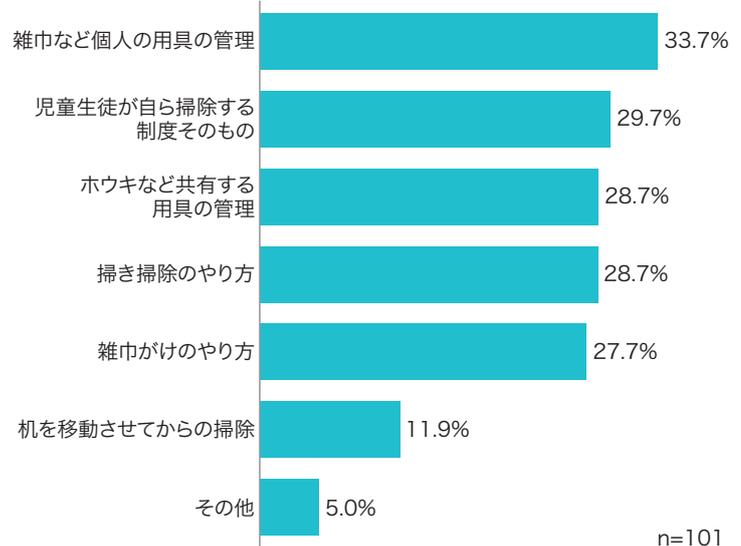
そもそも教室の掃除は衛生的？



教室の掃除は衛生的な環境で行われているのでしょうか？ 従来行われてきた掃除方法に対し、適切でないと思う点は少なくないようです。衛生対策が再構築されようとしている今、掃除のあり方自体を考え直してみてもいいのではないでしょうか。

教室内の掃除で、適切でないと思うポイントは？

(複数回答。教室の掃除が「適切でない」「わからない、どちらとも言えない」と答えた101人に質問)



あなたはどうか考える？ 教職員の様々な声

学校の衛生対策について、コロナ禍で変わった良い点、今後改善するべきだと思う点、その他ご意見を教えてください。

(自由回答)

今後はメリハリのある対策が必要だ

教室などの清掃は定期的に業者に依頼するとよいのでは？

油断せずに、基本的な対策は続けるべき

式典が簡素になった



コロナ禍で手洗い、うがい、換気の習慣が定着したのはよかった

オンライン授業の環境ができたのはよかった

学校の組織としての判断、現場に合った対策、保護者への説明が課題

マスクを外したがる生徒がいるのではないかと

掃除と除菌・消毒、一緒に考えてみませんか？

「入れない、広げない」 除菌も掃除も基本は同じ

マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスなど、私たちの生活には新しい衛生対策が定着しました。いずれもウイルスの拡大を防ぐ上で理にかなった対策で、教職員の皆さんをはじめ、多くの方が真剣に取り組んでいます。だからこそ、日本は世界的にも少ない感染者数、死者数で抑えられているのでしょう。

私はこれを機に、日常の掃除を見直してみようことを、お勧めしています。ウイルスや菌、カビといった身体に悪いものは、ゴミやホコリに付いて動いています。それらを取り除く掃除は究極の除菌でもあります。そして、感染症対策も掃除も、身体によくないものを「入れない、広げない」という本質は同じです。

例えば、建物の入り口で手指消毒するのは、外で手についたウイルスを持ち込んで、あちこちに触れることで、空間に広げないようにする対策です。では、毎日の掃き掃除、拭き掃除で、返って汚れを広げている作業はないでしょうか？室内で乱暴にホウキで掃いたり、椅子や机を引きずって移動させると、床に落ちているホコリやゴミを舞い上げてしまいます。汚れを「そっと運んですくい取る」が掃除の基本です。

目的は効率的な衛生対策 健康リスクを下げる掃除を

コロナ禍で教職員の皆さんには、除菌・消毒をはじめ、衛生対策の負担が増えたことでしょう。今後の社会情勢で除菌・消毒のあり方も変化するはずですが、正しい掃除が、新型コロナウイルス以外の感染症を含む、さまざまな健康リスクを防ぐのは間違いありません。

「掃除を見直す」というと、やるが増えると思われがちですが、決してそうではありません。「入れない、広げない」の発想を持つと、正しい掃除のやり方とともに、やらなくて良い作業、やらないほうが良い作業がわかるのです。毎日の掃除を単なる作業にせず、時間と労力を本当に必要な対策に費やしてください。

最後に、児童生徒が学校を掃除をするのは、日本独特の習慣だと言われます。賛否があることは承知していますが、私自身は良い文化だと考えています。子どものうちから掃除を他人任せにすると、公共の場を衛生的に使おうという意識、汚したらきれいにしようという意識が薄れます。

ただ、これまでは間違った掃除のやり方を、学校で覚えてしまっている人が多いのが実情です。ぜひ、次ページ以降の7つの提案を参考に、貴校での効率的な衛生対策を考えてみてください。



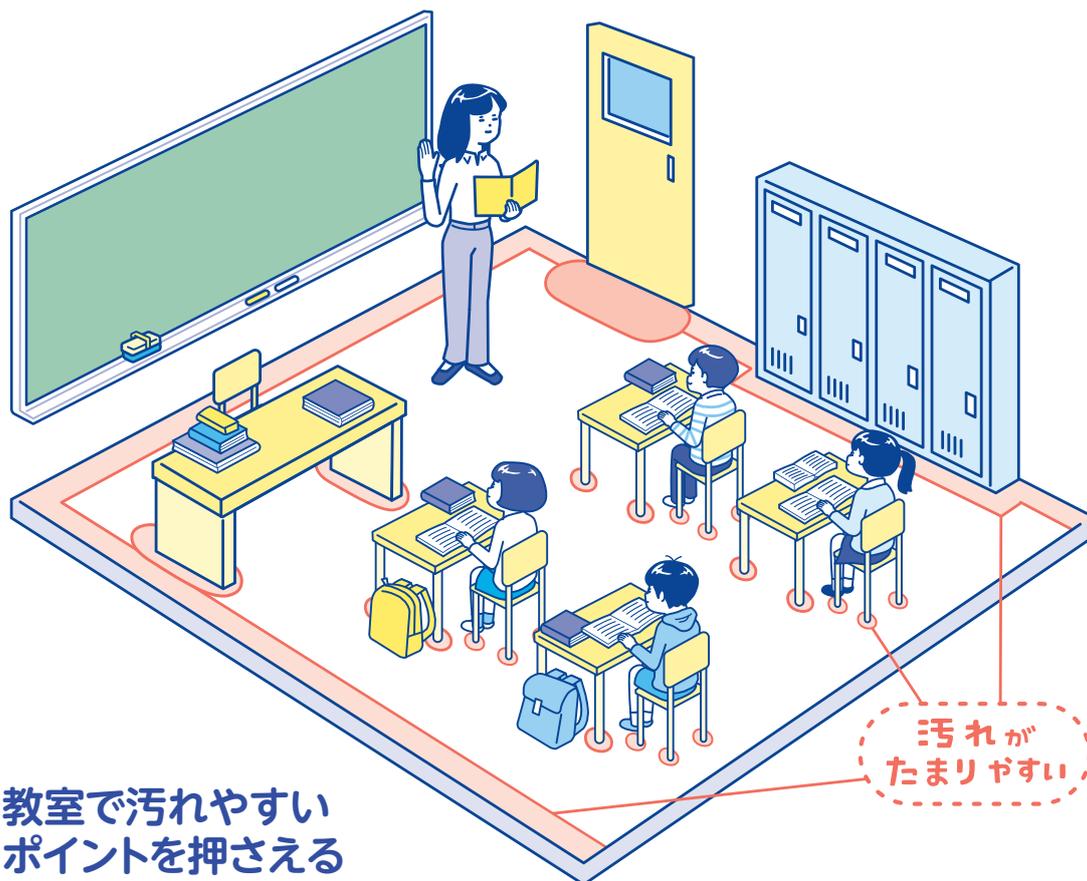
松本忠男氏

フロレンス・ナイチンゲールの著書「看護覚え書」に共感し、35年間、病院の環境衛生に携わる。1997年、医療関連サービスのトータルマネジメントを事業目的として、(株)プラナを設立。これまで現場で育ててきた清掃スタッフの総数は700人以上。現場で体得したコツやノウハウを、多くの医療施設や清掃会社に発信する。

(株)プラナ代表取締役社長、ヘルスケアクリーニング(株)代表取締役社長。著書に「病院清掃35年のプロが教える病気になるない掃除術(幻冬舎単行本)」「ウイルス・カビ毒から身を守る!(扶桑社ムック)」「健康になりたければ家の掃除を変えなさい(扶桑社BOOKS)」など。

ニューノーマルの衛生対策 7つの提案

教職員へのアンケートからも、学校の衛生対策が完全に元通りにならない可能性は高いと言えます。しかしウィズコロナ、アフターコロナの適切な対策は、明確にはなっていません。松本氏が指摘する日頃の掃除の見直しも含めて、エステーが新しい衛生対策のポイントを提案します。



1 教室で汚れやすい ポイントを押さえる

効率的な衛生対策の第一歩は、汚れがたまりやすい場所を知ること。要所を押さえて掃除をすると、部屋はずっときれいになり、時間短縮にも。基本的には、①壁際や隅②モノの周り③出入り口④汚れの発生源が、重点ポイントです。

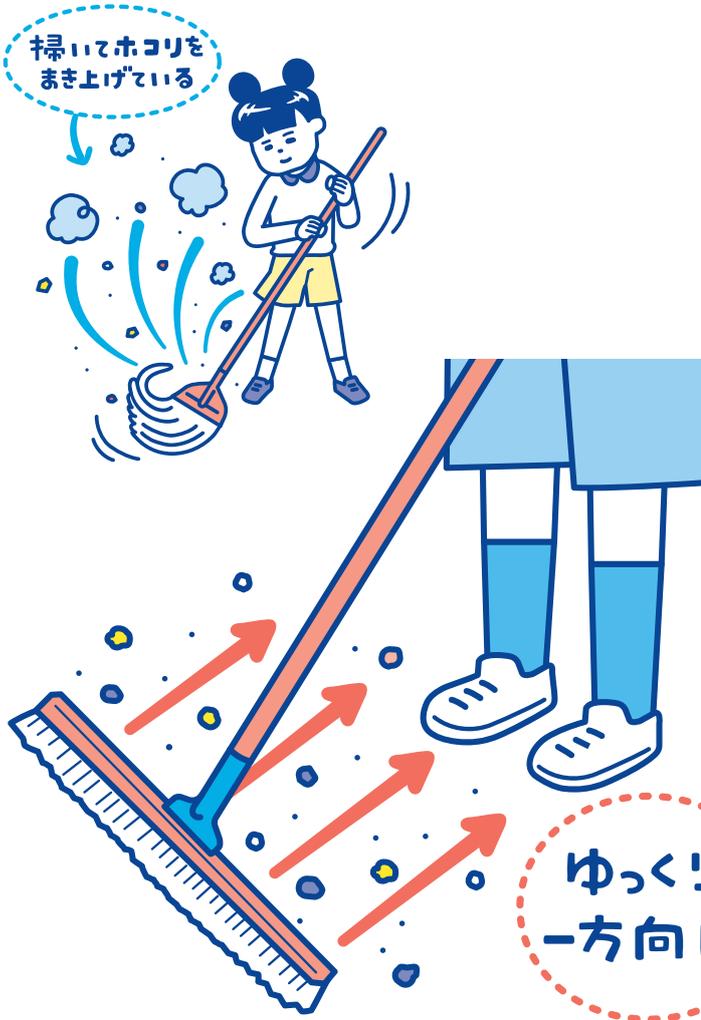
どんな部屋でも壁際には、ゴミやホコリがたまるもので、学校の教室も例外ではありません。壁以外にも、空間に漂うゴミがモノにぶつかって下に落ち、その周辺に汚れがたまります。教室なら、机や椅子の脚の周りには、汚れが集まってきます。できるだけ床にカバンなどを置かないのも、ホコリをためず、清潔な環境を保つコツです。

入口付近は靴底に付いた外のゴミが落ちる場所。室内用の上履きは外履きに比べると汚れは少ない

ですが、それでも廊下やトイレ、体育館など別の場所の汚れを、教室に持ち込んでいます。1週間に1回程度は上履きを洗って、靴底を清潔に保つのも有効な対策です。

また、教室の窓からも風に乗った外の汚れが入ってきます。ゴミは重力に従って落ちていくので、窓に近いほうの壁際は、汚れやすくなります。さらに、教室ならではのポイントとして、黒板の下が挙げられます（チョークを使う場合）。チョークのカスは、周囲に落ちていきます。

これらの汚れやすい場所は、特に意識して丁寧に、掃除してください。菌やウイルスはゴミについて部屋を移動しているので、先に汚れを取り除くと、除菌・消毒の効果も高まります。



2 掃き掃除は「運び掃除」に

床を勢いよく「掃く」感覚でホウキを使うと、小さくて軽いゴミやホコリが舞い上がります。時間が経てば床に落ちてくるので、これでは汚れを取り除いたことになりません。

ホウキはゴミを「運ぶ」感覚で、ゆっくりと一方向に引いてください。汚れがたまりやすい隅や机の脚の周囲は、ホウキを沿わせるように、丁寧に動かします。

多くの学校で使われるT字の自在ホウキなら、幅の広いヘッドで、いちどに多くのゴミを取り除くことができます。

また、机や椅子を引きずるように動かすと、汚れを移動させる（広げる）ことになります。動かす場合は、できるだけ静かに。または、動かさずにホウキで脚の周りのゴミを取り除くだけで十分かもしれません。状況に合わせて、掃除の仕方を工夫してください。

3 昔ながらの雑巾がけは推奨しません

私たちがマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを確保しているのは何のためでしょうか。物理的な壁をつくり、距離をとることで、ウイルスを吸い込んだり、接触するのを防ぐためです。

この考えに則れば、ゴミのたまった床と、汚れた雑巾に顔を近づける雑巾がけは、不衛生な行為だとわかります。新型コロナウイルスだけでなくインフルエンザ、ノロウイルスなど、さまざまな感染症の流行時には、特におすすめしません。

雑巾がけは、子どもの体力や運動能力、精神力の向上に役立つという意見もありますが、体力づくりの手段は他にもたくさんあるはずで、汚れを取り除く正しい方法で、自分を守り、他人を思いやることを教えてあげることが大切ではないでしょうか。





4 拭き掃除はできるだけ乾拭きで

こまめな換気が求められる昨今、教室にはたくさんの砂やホコリが入ってきます。そんな状態で水拭きすると、返って汚れを広げることになりかねません。水に砂を入れると泥水になるように、濡れた雑巾の表面が汚水でいっぱいになってしまうからです。

菌やウイルスにも同じことが言え、水拭きが逆効果になる可能性も。また、後述するように、濡れた雑巾は雑菌の温床となり非常に不衛生。あらゆる点で「できるだけ水を使わない掃除」を推奨します。

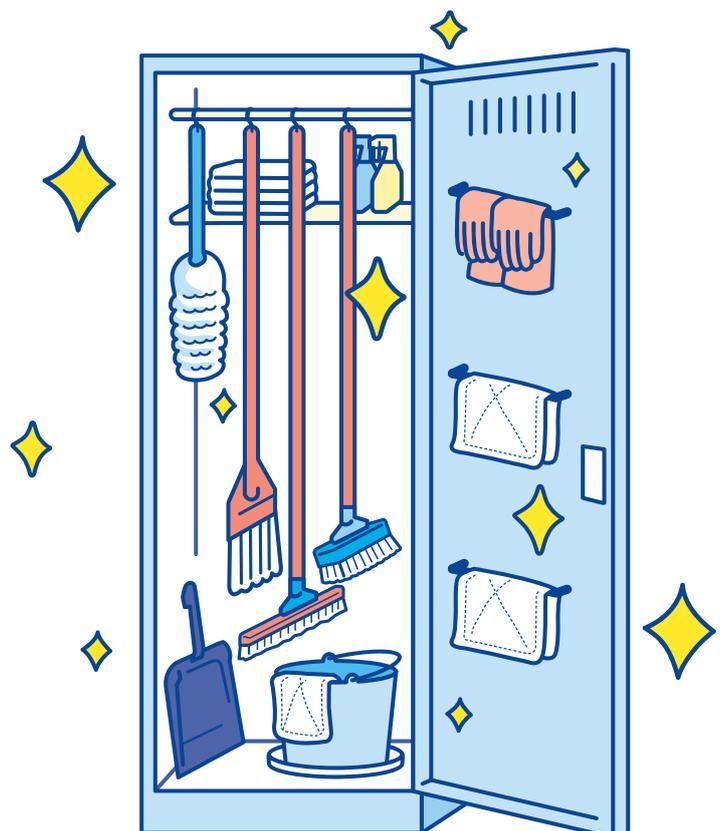
拭き掃除は乾拭きが原則です。こびりつくほどにたまっていなければ、ほとんどの汚れは乾拭きで落とせます。飲み物や食べ物をこぼしたら、そこだけ水またはアルコールで拭いてください。

5 掃除用具を清潔に保とう

汚れたホウキや雑巾で、いくら丁寧に掃除をしても、教室はきれいになりません。掃除用具を大切に扱い、清潔に保つことは、衛生対策の基本です。

ホウキのヘッドについたゴミは、ティッシュなどでできるだけこまめに取り除きましょう。汚れた雑巾は丁寧に洗って、すぐに風通しのよい場所に干してください。生乾きの布には雑菌が繁殖し、ニオイやカビ、健康を害する原因にもなります。また、可能であれば、古い雑巾は交換してください。

掃除用具を入れるロッカーは定期的に内部を清掃するようにしてください。雨の多い時期などは戸を閉め切らず、空気を入れ替えカビや雑菌を防ぎます。バケツや雑巾は、よく乾かしてから収納しましょう。





6 換気は引き続きこまめに ただし掃除の時間は 窓を閉めて

教室の窓を開けて、掃除する学級は多いのではないのでしょうか。机を動かしたり、掃き掃除で舞い上がるホコリを外に出すためでしょうが、すでにお伝えしたとおり、そもそもホコリが舞うような掃除がNGです。

また、砂やホコリが風によって窓から入ることにご注意ください。掃除の時間に窓を開けると、掃除をしながら、外から汚れを取り込むことになりかねません。

しかし、新型コロナウイルス対策にはもちろん、衛生的な教室の環境を保ち、あらゆる健康リスクを下げるためにも、空気の入れ替えは重要です。掃除の時間以外で、換気の習慣は、ぜひ継続してください。教室だけでなく廊下の窓も開けて、空気の出口をつくることも忘れずに。

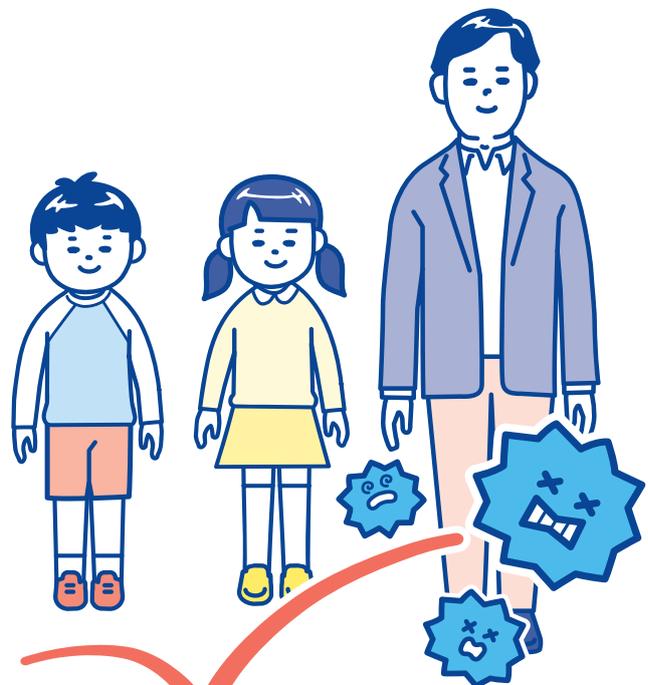
7 「抗菌」アイテムを 賢く使おう

「除菌」とは、今そこにある菌やウイルスを取り除くこと。除菌アイテムには、アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどが使用されています。

「抗菌」「抗ウイルス」は、持続的に菌やウイルスを抑制することを指します。菌やウイルスが住みにくい環境をあらかじめつくり、増殖するのを防ぐのです。

抗菌、抗ウイルス効果を持つアイテムを活用すれば、繰り返しスプレーをかけたり、シートで拭いたりしなくても、一定期間、リスクを下げるすることができます。

接触の多い個人の机や、不特定多数が触れるドアノブ、こまめな除菌が難しい掃除用具など絞って使用すると、効率的な衛生対策となります。



◆ ◆ 抗菌コーティング ◆ ◆

ドアノブや手すり

汚れや菌・ウイルスを広げない 一方向拭きのすすめ

長年、医療施設の衛生対策に従事し、その知識を一般にも広めてきた松本氏は、「返って汚れや菌を広げてしまっている」と拭き掃除の矛盾を指摘します。松本氏がすすめる簡単で効率のよい拭き方を解説します。



床やテーブルを拭き掃除するとき、返って汚れを広げるような拭き方をしていないでしょうか？汚れをこすり落とすように、雑巾や布巾をゴシゴシと何度も往復させたり、円を描くようにグルグル回すのはNG。拭く方向を変えるときに、せっかくとった汚れを置いてきてしまいます。結果的にゴミやホコリ、目に見えない菌やウイルスまでも、拡散してしまうのです。

松本氏が提唱するのは、一方向の「S字拭き」です。布（紙）をきれいに折りたたんで、まっすぐ一方向に拭いていきます。端まで行ったら、布を180度ぐると回して、折り返します。すると、進行方向に対して、常に同じ面が前方になります。

すべて拭き終わったら、汚れを残したり、落としたりしないよう、そっとつかみとります。

一方向のS字拭きは、せっかくキャッチした汚れを置いてくることなく、きちんと回収するための工夫。最小限の手間で、最後まで理にかなった拭き掃除ができるわけです。

頑固な汚れには、部分的なゴシゴシ拭きも有効ですが、最後は一方向のS字拭きで、きれいにしてください。ドアノブなど立体的な物も、ゴシゴシ往復せず、一方向に拭くときれいになります。

一方向のS字拭きは、慣れないうちこそ面倒ですが、時短にもつながる賢い方法です。ぜひ、実践してみてください。

正しい清掃や衛生対策を学ぶ 「福育(拭く育)」授業レポート

横浜市立荇子田小学校では、松本忠男氏が考案した「福育授業」を導入し、「児童主体の感染対策」を推し進めてきました。2021年11月より「コロナに負けるな！衛生対策調査隊 正しい清掃を広げよう」をテーマに、4年生が総合学習に取り組みました。

取材や実験を通して 自ら衛生対策を考え直す

児童たちは「衛生対策調査隊」として、近隣の商業施設への衛生対策の実態を取材。身近な地域でも、様々な感染対策が行われていることを発見しました。健康に配慮しアルコール濃度を調整した消毒剤、飛沫防止シートの設置、テイクアウトの開始など、コロナ禍の衛生対策、サービスの工夫など、取材では様々な気づきを得ました。



さらに、福育授業で学んだ正しい衛生対策を、校内から地域へと広めるべく、オリジナルの啓発ステッカーを作成(右上)。校内や取材を行った近隣の商業施設などに貼らせてもらいました。地域の方々からは、「小学生が作ったとは思えないくらい本格的」「衛生対策への意識が上がった」といった声が寄せられました。

子どもたちに単なる知識としてではなく、本物の体験を通じた生きた学びを与えることができました。そのことで日々の行動が変容していったことは、大きな成果でした。



横浜市立荇子田小学校
4年1組教諭(当時)浦部文也先生



松本忠男氏とエステーの福育授業

また、福育授業では、多くのメディアで掃除方法を伝えてきた松本忠男氏が、本当に正しい「拭き方」を科学的に伝えます。児童たちは、蛍光塗料とブラックライトを用いた汚れの可視化実験や、松本氏が推奨する“一方向拭き”を学びました。

エステーは今後も松本氏と連携し、除菌作業の負担やストレス増加、正しい清掃方法への知識不足といった課題解決に向けて、「福育」活動をさらに進めていきます。



自分たちが主体的に授業へ取り組んだことで、子どもたちの衛生観念は大きく変わりました。今後も学んだことを地域に、そして世界に広げて行ってほしいと思います。



横浜市立荇子田小学校
4年2組教諭(当時)佐藤優先生

学校の衛生対策に

速効＋持続力のDr.CLEAN⁺



こんな要望にお応えします

毎日何度も繰り返す
除菌作業の負担を軽減したい

消耗の早い除菌アルコール
コストも軽減したい

アルコール除菌では、効果は続かない
除菌効果は持続させたい

不特定多数が触れる箇所ほどひん繁な除菌作業が必要に。日々その繰り返しが求められる現場では、いま負担軽減の対策が求められています。

一般的なアルコールの消毒剤は、除菌後すぐに蒸発してしまうため再汚染しやすく、持続性のある除菌・ウイルス除去効果は得られません。

Dr.CLEAN⁺は、除菌力の高いアルコールを配合すると同時に、銀イオンを表面に薄くコーティングする「Hydro Ag⁺」技術を採用。ひと拭きで速効性の除菌力を発揮し、その後も抗菌効果が

約1か月持続^(※)します。

また、Dr.CLEAN⁺を同じ場所に塗り重ねると、より強固で抗菌力の高いコート膜が形成されます。日々の清掃、除菌作業で繰り返し使用することで、クリーンな環境と同時に、抗菌効果も高めていくことができます。

コーティングした表面を、水や次亜塩素酸ナトリウムで繰り返し清掃しても、抗菌効果が損なわれず持続します。多くの医療現場で採用されるニューノーマルの除菌・抗菌剤です。

※使用環境によって持続期間に差があります。また、すべての菌やウイルスに効果があるわけではありません。



除菌は作業の負担軽減と同時に、消毒剤、除菌剤の使いすぎへの注意も必要です。吸い込んだり、手で触ることで、子どもたちの体に悪影響をもたらすからです。私はどちらも抑えられる「Dr.CLEAN⁺」をお勧めしています。



空気をかえよう

エステー